

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

献腎移植登録申請・更新における患者背景および予後調査

1. 対象となる患者さん

1982年1月～2024年3月の間に当院で献腎移植登録申請及び更新をされた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科 堀 俊太

3. 研究の目的と意義

2010年に改正臓器移植法が施行され、脳死下腎移植数が増加し献腎移植総数が増加することが期待されましたが、本邦では献腎移植総数は依然伸び悩んでいます。腎単独献腎移植の平均待機日数は14.8年で待機患者さんの高齢化も問題となっています。一般的に、献腎移植は生体腎移植に比べ生存率・生着率ともにやや劣るとされますが、本邦においては献腎移植総数が少なく、待機年数が長いことによる心血管系障害の増悪や易感染性等もその原因と考えられています。

これまで我々は生体腎移植患者さんの栄養状態・筋量・脂肪量・残腎体積・組織学的因子が腎機能に与える影響や、献腎移植待機患者さんの献腎移植実施における新型コロナウイルス感染症の影響について発信してきました。本研究では、献腎移植待機患者さんの転帰（献腎移植実施率や生体腎移植実施率、登録取り消し）について調査し、カルテ情報を解析し、限りある献腎提供を最大限有効に活用できるよう、献腎移植登録申請および更新における患者さんの適格性を再考します。将来的には患者さん個々に合わせた最適な腎代替療法を提供することが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、献腎移植登録申請及び更新されている患者さんの献腎移植実施率や生体腎移植実施率、登録取り消し率を算出します。また、これらに関する患者さんの特徴を調査します。

## 5. 使用する情報

診療情報：年齢、性別、原疾患、身長、体重、喫煙歴、既往歴、輸血歴、妊娠歴、Performance Status、合併症、血圧、手術所見、透析歴、透析の種類、予後、一般血液検査結果、画像検査結果（レントゲン）、尿一般検査結果（尿定性・生化学的検査）、心臓電図検査結果、体組成分析結果

## 6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

## 7. 研究期間

研究機関長の実施許可日（2024年2月15日）～2027年12月31日

## 8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科 堀 俊太

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：urology@naramed-u.ac.jp